野立広告に高さ基準

設置許可見直しで方針

県景観審 総量規制、色彩も

県景観審議会は二十八日、県庁で開かれ、屋外広告物部会が県条例に定めた屋外広告物の設置許可基準の見直し状況を中間報告した。見直しの方針として、野立広告に高さ基準を新設するほか、面積の総量規制の導入、広告の色遣いを制限する色彩基準の検討などを示した。同部会では今後、さらに検討を重ね、年度内の答申を目指す。

野立広告は地面に看板などを立てたもので、県の現行基準では面積を「百平方㍍以下」に規制しているが、高さに対する規制はない。近隣の県では、石川県が店舗敷地内に設置する「自家広告物」を高さ十三㍍、それ以外の一般広告物を十㍍に規制しているほか、長野、岐阜の各県も野立広告に高さ基準を設けている。

屋外広告物部会が昨年十二月に実施した県内の屋外広告物調査では、高さが二十㍍を超える広告物もあった。このため、高さ基準を設けることとし、今後は、高さ基準の数値を具体的に検討する。面積基準も近県に比べて緩いことから、面積の規制も強化する。

中間報告では、このほか、複数の店舗が入居する雑居ビルでは、個々の店舗が基準を満たせば、大量の広告物を設置できるため、建物の敷地面積に応じて表示可能な総面積を段階的に定めるとした。

鮮やかな色彩の広告物が自然や沿道の景観を乱すことについては、数値設定も含めた色彩基準を検討するとした。

「景観広告」を表彰県景観審議会では、今年度から周辺の景観に配慮、調和した屋外広告物を「景観広告」として表彰する制度を新設したことも報告された。「ふるさと眺望点」については第三次指定のテーマとして「都市（まち）の景観」を選んだとした。

屋外広告物の設置許可基準の見直し検討状況が報告された県景観審議会 ＝県庁

霧発生装置で涼しく

グランドプラザで試験導入

富山市 来月末まで日中に稼働

富山市は二十八日、同市の全天候型広場「グランドプラザ」に霧状の水を蒸発させて周囲の熱を奪う「ミスト発生装置」二基を設置した。付近を涼しくする効果が確認されたため、装置を八月末まで日中に稼働させる試験導入を開始した。

装置は一基当たり約三百平方㍍を涼しくする効果があり、東京のリース会社から計約百万円で借りた。装置が稼働し、細かな霧状の水が風とともに噴き出すと、装置前は心地よい涼しさとなった。

一カ月当たりの電気料金は約一万六千五百円、水道料金が約千百円で、「環境にやさしい」（市都市再生整備課）冷房設備となっている。

装置は、グランドプラザを利用するイベント主催者などから「暑い」との声を受けて設置された。市は試験導入の結果をみて、来年度以降の本格導入を検討する。

グランドプラザに設置された「ミスト発生装置」 ＝富山市総曲輪３丁目

仕事と生活調和へ推進会議

富山労働局、年度内に提言

県内で仕事と生活の調和を推進するために開かれた会議 ＝富山市の富山労働局

富山労働局は二十八日、仕事と生活の調和の実現に向け、社会的な機運を高め企業の取り組みを推進するため調和に取り組む企業の会議を設置した。同日、初会合が開かれ、年度内に地域の実情に応じた提言をまとめ、好事例集を作成することなどを確認した。

昨年十二月のワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議で、国民的な取り組みの方向性を示す憲章と、国や地方の施策の方針などを定めた行動指針が策定されるなど、国は仕事と生活の調和の実現に取り組んでいる。

推進会議は、県内の労働、産業、県の関係者と学識経験者の計十一人が委員を務め、議長に奥田實県立大教授を選んだ。櫻井眞一局長は「県独自の状況に応じた実効ある取り組みに知恵を出してほしい」とあいさつした。

会議では、モデル事業を実施する企業として廣貫堂（富山市）と立山電化工業（高岡市）を選定した。二社はコンサルタントの指導、助言を受け、行動計画の策定に取り組む。

会議は年度内にあと二回開き、モデル企業での取り組みのほか、労務管理上の問題点に関する企業への診断サービスやシンポジウム、セミナーの開催など各種事業の成果を検証する。

富山政経

習領 学要 新指

知事に円滑実施要望

移行に向け小中学校長ら

県小学校長会と中学校長会、小中学校長協会は二十八日、県庁を訪れ、石井隆一知事に、来年度から移行期間に入る新学習指導要領の円滑な実施や少人数教育の拡充、生活指導体制の充実を要望した。

新学習指導要領に関する要望では、補助教材の速やかな配布や人的支援を国に働き掛けるよう求めた。小学五、六年生で必修化される外国語活動に対応するため、同席した東野宗朗教育長は小学校の国語教諭を対象に研修を実施するとした。

今年度配置した中一学級支援講師と小学校専科教員について、各会長が拡充を求めたのに対し、石井知事は「実情をよく聞き、できるだけ充実したい」と述べた。校長の判断による少人数学級の実施については「よく勉強し、考えたい」とした。教員OBらの活用などスクールカウンセラーの拡充については、努力する考えを示した。

北経連と3県知事の懇談延期

二十九日に福井市で予定されていた北陸経済連合会と三県知事の懇談会は、集中豪雨への対応のため延期となった。

食と農林水産

種も

県はこの

に作付けし

本格的に始

に、審査す

象に研修＝

し、高品質

に備えた。

種もみの

荻野孝次 県厚生連常務理事

人サロン

今月から事務方のトップに就任、経営立て直しの陣頭指揮にあたっている。厚生連は六年連続の赤字決算で、黒字転換へ意識改革

昨年度は二億三千万円の損失を計上した。診療報酬が四期連続で引き下げられたことが大きな原因だが、黒字転換を目標にしている。

経営改善では、七対一看護の期待する一方、無駄の削減に岡病院で経営

職革

え

て、施設

は不可欠

投資でき

けるため

が勝負と

めている

能越道の配分額 1億6800万円

北陸地方整備局

北陸地方整備局は二十八日、今年度二度目となる国土形成事業調整費の配分額を発表した。

県関係では、能越自動車道の整備促進に一億六千八百万円、片貝川の浚渫に三千万円が配分された。氷見北―灘浦インターチェンジ（IC）間で用地交渉が進展したため、新たな盛り土工の予算となる。

リフト利用3割増

大山観光開発

らいちょうバレーと極楽坂の両スキー場を運営する富山市の第三セクター大山観光開発（同市）は二十八日、同市の大山農山村交流センターで取締役会を開いた。同社は、四月二十六日から今月二十一日までのゴンドラリフトの利用が、昨年同期比と比べ約三割増加したことを報告した。

大山観光開発によると、昨年度のゴンドラリ